学校見学ガイド

学校説明会の日程は、右記の通りです。

- 学校説明会は予約制となっております。参加をご希望の方は、ホームページよりお申し込みください。
- この他にも見学できる学校行事がございます。詳細もホームページにてご案内しております。ぜひお越しください。

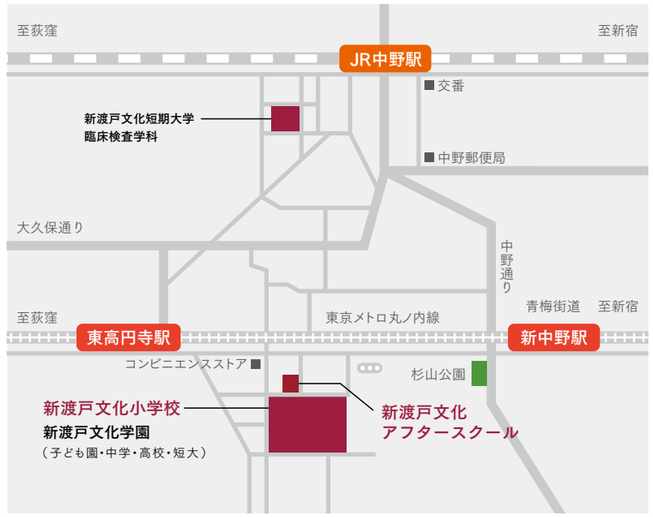
学校説明会（全て2026年）

第1回	1/24（土）	9:00〜10:00	オンライン開催
第2回	1/30（金）	15:30〜17:00	アフタースクール公開
第3回	4/17（金）	19:00〜20:00	オンライン開催
第4回	5/16（土）	9:30〜12:00	学校説明会【お子様同伴OK】
第5回	6/8（月）	15:30〜17:00	アフタースクール公開
第6回	6/20（土）	10:30〜12:30	授業公開・説明会
第7回	7/18（土）	9:30〜12:30 12:30〜	入試体験・個別相談会【年長対象】 給食試食会【年長対象】
第8回	9/12（土）	9:30〜12:00	学校説明会【お子様同伴OK】

アクセス

東京メトロ丸ノ内線
「東高円寺駅」から徒歩5分、
「新中野駅」から徒歩7分

JR中央線・東京メトロ東西線
「中野駅」から徒歩15分



主な駅からの所要時間

〈 JR線ご利用の場合 〉

新宿駅 ▶ 中野駅　約４分

〈 東京メトロ 丸ノ内線ご利用の場合 〉

新宿駅 ▶ 東高円寺駅　約８分

荻窪駅 ▶ 東高円寺駅　約６分

〈 その他 〉

練馬駅 ▶ 東高円寺駅　約23分

バスなどを利用することも可能です。

新渡戸文化小学校
新渡戸文化アフタースクール

〒164-8638　東京都中野区本町6-38-1
TEL：03-3381-0124　FAX：03-3381-0125
www.el.nitobebunka.ac.jp

noteもご覧ください

新渡戸文化小学校
公式note

併設校 ： 新渡戸文化子ども園／新渡戸文化中学校／新渡戸文化高等学校／新渡戸文化短期大学

入学案内 2027

新渡戸文化小学校

Happiness Creator

「しあわせ」を
つくる人になろう。

自律した学びで、
自分とまわりの“Happiness”を創り出す

“ 世に生まれ出でたる大きな目的は、人のために尽くすことにある。
自分が生まれた時より死に至るまで、周囲の人が少しでもよくなれば
それで生まれた甲斐ありというもの ”
初代校長・新渡戸稲造のこの言葉から、新渡戸文化学園では
“ Happiness Creator ”を教育の最上位目標にしました。

新渡戸文化小学校の
3つの教育指針

新渡戸文化小学校は、教育は“未来からの要請”であるとして、
子どもたちが社会に出る2040年代の世界を見据えた教育を実現します。

NITOBE's Policy 1

確かな学力を持った
自律した学習者に

自ら周りをよく観て、考え、判断し、行動し、学んでゆく。
そんな確かな学力を身につけた
「自律型学習者」が育つ教育を掲げています。

NITOBE's Policy 2

社会にむけて
学びをアウトプットする
“プロジェクト型の学び”

教科の垣根を越えて、学んだ成果をさまざまな手法で
アウトプットする“プロジェクト型の学び”。
仲間とともに、答えのない問いに挑戦します。

NITOBE's Policy 3

心を聴く、心を伝える。
子どもも大人も、
“対話”で築く

相手の想いに気持ちを寄せながら聴き、
自分の想いを伝える。学習でも生活でも、
対話する文化を大切にします。

Happiness Creatorにつながる 12の学習者像

小学生にもイメージが伝わるように、一つひとつの言葉を厳選して紡ぎ出しました。学年・クラスの目標や、通知表の生活評価の指針にしたり、日頃の教育活動に生かしたりしています。

人の考えや思いを受けとめ大切にできる人
ちがうことを素晴らしいと思える人

人の思いに寄り添い
応援したり勇気づけたりする人

自分の意志でよりよい選択ができ
その結果を受けとめられる人

よりよい未来に向けて可能性を広げるため
イメージを描いたり目標を設定したりできる人

自分のいろいろな面に気づき
自分の歩みをふり返ることができる人

人と人とがつながることに安心と喜びを感じ
関係性を広げる人

自分の思いを自分にあった方法で
場面に合わせて伝えられる人

様々なことに疑問をもち
新たな視点で「　　」を生み出す人

自分が夢中になれることや
心地よく思えることを知り、それを愛せる人

「どうしたい？」と自分の心に問いかけ
もう一度スタートできる人

どんなときでも自分にできることに目を向け
自分やみんなを笑顔にする人

どんなことでも
まずはやってみる人

わたしたちのまいにちの「まなび」を
しょうかいするよ

がっこう探検ツアー はじまるよ！

ツアー1 基礎学習

ツアー2 プロジェクト型の学び

ツアー3 全校ミーティング

ツアー4 にとべごはん（給食）

ツアー5 アフタースクール

基礎学習

自ら問いを立て、考えぬく

確かな基礎学力を育む経験が学びへつながる

小学校時代は、子どもが「考える力」の土台を築く大切な時期です。探究的・体験的な学びは興味や意欲を引き出しますが、確かな知識や技能という基盤がなければ、経験は点のまま散らばり、深い学びへと発展しません。

新渡戸文化では、プロジェクト型の学びをより豊かなものにするため、その土台となる基礎学力の獲得に取り組みます。体系的な学習で身についた学力があってこそ、子どもたちは一つひとつの経験を深い理解へとつなげ、学びの価値を自ら積み重ねていくことができるのです。

また、年1回の教研式標準学力検査などを通して定着状況を丁寧に把握し、一人ひとりに必要な支援や授業改善へとつなげることで、確かな成長を支える教育を実践しています。

小学1年生の時間割例

	月	火	水	木	金
	登校　8:00〜8:15				
	朝の会				
1	国語 ①1	音楽 ②2	図工	算数	国語
2	体育	道徳	図工	国語	生活 ③3
	20分休み				
3	生活	国語	情報	体育	音楽
4	算数	英語	算数	④4	国語
	給食・昼休み・掃除				
5	学級活動	生活	国語	算数	算数
	帰りの会　14:30 ごろ下校				
	アフタースクール				

Point_1

国語・算数・生活・道徳・学級活動は担任が担当します。1日の大半を担任と過ごすことにより、安定した学校生活の基盤を作ります。

Point_2

図工・体育・音楽・英語・情報は専科の教員が担当し、担任や学年担当の教員がサポートに入ります。学年が上がると専科の科目や時数も増えます。

Point_3

生活科の時間は2クラス同じ時間に入れています。学年全体で動いたり、学年担当教員が4名いるため15人の小グループで活動したり、さまざまな形で学習ができます。

Point_4

月に1〜2回、全校ミーティングや縦割り活動など、全校共通の活動時間があります。縦割り活動では1〜6年生が少人数のグループを組んで交流を深めます。

学びのclose up

みんなで読むから楽しい！ 1年生「大きなかぶ」

定着につながる基礎学習とアウトプットで体感する面白さ

「声に出して読むことで、物語の面白さを体感する」をテーマに学習を進めました。まずは、小さい頃から慣れ親しんできたエプロンシアターを使って、教員が物語の紹介をしました。興味津々で教科書に入っていき、何度も音読を重ねていくうちに、かぶが抜けないときのセリフの違いや、登場人物が出てくる順番など細かなところに気づきました。学習の最後には音読劇をし、声の大きさや話す速さ、追加のセリフや動きなどを決めて登場人物になりきることで、物語の面白さを体感しました。

入学して1ヶ月、チームで練習をがんばりました。友達のよいところをすぐに真似していて、とっても素敵でしたよ。

Step 1　書く

国語の授業では毎回、新出漢字を習います。みんなでその漢字を使う言葉を発表し合う時間が子どもたちは大好き。授業中や宿題でしっかり反復練習をして定着を図ります。

Step 2　読む

音読を繰り返すことで、登場人物の行動や気持ちを想像することができます。「このセリフはきっと小さくて優しい声だよ」などと想像し、読み方にも工夫が出てきます。

Step 3　演じる

劇をするためには、深く読み取ることで生まれる「表情」や「細かいセリフ」の追加が必要です。「楽しんで劇をする内に、深く読み取ることができた！」を目指しました。

Step 4　ふりかえる

各チームの工夫で面白い劇が出来上がりました。「ねずみ役の子がとても小さくなってて本当のねずみみたいだった！」と工夫を褒める言葉や感想がたくさん出てきました。

ぼくはおばあさんになりきって、大きな声でかぶを引っ張ったよ！

わたしはナレーターで、話す速さがとってもいいねってほめられたよ！

プロジェクト型の学び

学びに夢中になる。忘れられない学びになる

つくって学ぶ。自ら学ぶ。新渡戸文化の「プロジェクト型の学び」

学びの中心にあるのは、「プロジェクト型の学び」です。学習のゴールに創造的なアウトプットを据えることで、子どもたちは学ぶ目的や必要性を明確にしながら、身につけるべき知識や技能を自発的かつ必然的に獲得していきます。教科の中で行うプロジェクト型の学びや、仲間とともに答えのない問いに取り組む「プロジェクト科」で積み重ねた成果は、「新渡戸祭」や「スタディフェスタ（スタフェス）」といった年2回の発表の場で表現されます。これらの目標を見据えながら、1年間の学習が計画的に進められていきます。

Focus 01　2年生 ベジタブルプロジェクト「ベジプロ」

野菜でつながる教科横断の学び

野菜の種っていろんな形、葉も違う、芽も違う。生活科の植物を育てる単元をベースに観察をしながら、国語とコラボしてそれぞれの野菜の知恵を調べたり、SEL※とコラボして今のきもちを表す、野菜マグネットをつくりました。新渡戸祭に向けて、野菜の収穫を祝う「収穫祭」を開催しようと、各国で開かれる多様なお祭りの探究を経て、お祭りに不可欠な衣装やモニュメントを図工科とコラボして制作したり、音楽科とコラボしてお囃子に触れたりもしました。

当日は6つのチームに分かれて、約5ヶ月間の取り組みを伝え、植物や文化の多様性について興味を広げていました。

教科を横断してつくる「収穫祭」。

※SELとは、Social Emotional Learningの略で、社会的スキルや情動リテラシーを育む教育的取り組みです。

校内外で自然に触れ、それぞれのふしぎを見つけました。

Focus 02　4年生 自然ふしぎカフェ

自然のふしぎを見つけ、問い、語り合う学び

身近な自然のふしぎに心を動かし、感じ、考える「センス・オブ・ワンダー」を大切に活動してきました。雨の日の公園での発見や、校内で見つけた自然を写真や絵で表現する活動、干潟での生き物探しなどを通して、一人ひとりが自分の問いを見つけました。

その探究を、新渡戸祭では「自然ふしぎカフェ」として発表。カフェのような雰囲気の中で語り合い、対話を楽しみました。自然へのまなざしが広がり、学ぶことを楽しむ姿勢が育っています。

Focus 03　6年生 つ・な・ぐプロジェクト

想いの「おすそ分け」、大槌スタディツアー※での学び

「つたえたいことがある。なぜその土地で生きるのか。ぐうぜんのであいの中に学ぶべきものがあった。」大槌スタディツアーを中心とした学びのストーリーを通じて、6年生はたくさんの人の想いを感じ取り、自分自身のあり方を見つめました。大槌での出会いや体験から一人ひとりが五感を通して感じたことをお互いに「おすそ分け」しながら対話を繰り返したことで、物事を多面的に捉え、そこに関わる人々の想いを想像しながら自分ごととして考えようとする姿勢へと成長。新渡戸祭では「伝えたい」という想いを、紙芝居・プレゼン・対話の場づくりなど多彩な形で「おすそ分け」しました。

各教科での学習との関連が、旅での学びをより一層深めました。

※岩手県大槌町を訪れる6年生の宿泊行事です。

全校ミーティング

私たちで、しあわせな学校をつくろう

ひとつのテーマについて、学校全体で考えていく時間が「全校ミーティング」。まずはひとりで考え、クラスのみんなと意見を交わし、学級・学校全体へプレゼンする。その流れの中で、相手の意見や気持ちをくみ取りながら合意形成していく文化をつくり、「未来は自分たちでつくることができる」という気持ちを育てます。

全校に発表を配信！

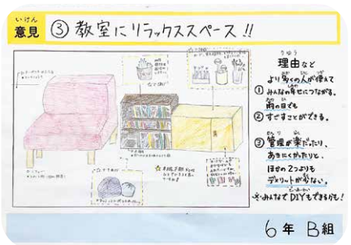
❶ テーマを決める

1年生から6年生までの全員が自分ごととして考えることができるテーマや、日頃疑問に思っていることを募集し、代表委員がテーマを決めます。

どうしたらみんなが楽しい「私服デイ」になるだろう？
年間3回の私服デイを実現。お互いにポジティブな声かけをし合う至福の1日に！

学校に必要な筆記用具を考えよう
昔ながらのルールを見直し、文房具の特徴や発達段階に合わせて変更！

休み時間を20分から30分にのばしたい！
話し合いとトライアル期間を経て、週に1回30分の休み時間を実現！



みんなでものごとを決める、意思決定のプロセスを学びます。

❷ 話し合う

学級での話し合いは多数決に頼らず、全員で新しいアイデアを作り出したり、新しい価値に気づく場として設定しています。その際、ハピネスクリエイターとして「自分もみんなも幸せになるには？」という視点を大切にしています。話し合ったことはポスターと動画にして発信します。

❸ どうするかを決める

子どもたちや保護者の方がよく通る場所に、「全校ミーティングボード」が設置されています。今どの段階なのか、どんな意見が挙がっているのかが、ひと目で分かるようになっており、各クラスのプレゼン動画を見ながら最終的に自分の意見を決めて意思表明をします。

最後に、にとべサミットで対話をして最終決定をしていきます。運営は代表委員会のメンバーが中心となり、各クラス代表や教員の代表が集い、保護者からの意見も交えて方向性を決めていきます。その模様は全校に同時中継されます。

「私服で学校に来てもいい日をつくりたい」という私の提案が形になったよ！

にとべごはん（給食）

笑顔あふれる、こだわりの手作りごはん

日本初の農学博士でもあった新渡戸稲造の理念に基づき「食」にはこだわりをもって、私たちは給食を「にとべごはん」と呼んでいます。私立校の中でも数少ない手作り自校給食で、子どもたちの健やかな身体と豊かな心を育んでいます。

「世界一の給食」を目指して心を込めてつくっています！

にとべごはんのポイントは3つ

Point 1 手作りのだし

添加物・化学調味料はほぼ使用せず、手作りのだしを使用します。和食のメニューでは、かつお節や煮干し、だし昆布でだしをとり、洋食・中華料理献立では、鶏ガラや豚骨を香味野菜とじっくり煮込んでスープをとります。

Point 2 こだわりの素材

春は筍、夏は色とりどりの夏野菜、秋はきのこ、冬は白菜やほうれん草など野菜以外にも旬の食材を多く取り入れ、食事から季節を感じることができるよう献立を毎日考えています。

Point 3 和食の献立

日本の食文化を守っていきたいという思いから、月の7割を和食、月の3分の1は魚を主菜とした献立にしています。

スターシェフとのコラボごはん

和洋中の料理の世界で名を馳せている「スターシェフ」が考案した、にとべごはんを提供するスペシャルデーを複数回開催しています。にとべごはんの魅力を知っていただく機会として、「保護者向けにとべごはん体験会」もあります。

全日本・食学会（AJFA）とも包括連携し、続々と進行中！

szechwan restaurant 陳 井上和豊氏	Wakiya 小澤善文氏
賛否両論 笠原将弘氏	鮨 玉かがり／天ぷら 玉衣 高野竜一氏
柳原料理教室 柳原尚之氏	日本橋ゆかり 野永喜三夫氏
日本料理てのしま 林 亮平氏	デリス・ド・キュイエール 川上文代氏

ほか

アフタースクール

主体性が育つ、放課後の過ごし方

\ point 1 /

放課後の過ごし方は自分で決める

アフタースクールは自由な時間。友だちと遊ぶ、学習に取り組む、おやつを食べる、好きなプログラムに参加する、ものづくりに挑戦する、何もしないでボーっとする。多様な選択肢の中から放課後の過ごし方は自分で決めます。

\ point 2 /

目指すのは子どもの自律

自律の第一歩は「時間管理」。自分で時計をみてプログラム場所に移動したり、帰宅の準備をします。大人に依存することなく、自分で放課後の過ごし方を組み立てていきます。

\ point 3 /

安心して子どもを預けてください

アフタースクールでは、かゆいところに手が届く、徹底したペアレンツサポートを行っています。それは毎年保護者の声を拾い、保護者の方が安心して働けるよう、改善を重ねてきた結果です。

必ず全員受け入れ
過ごす場所が豊富なので定員はなく全員を受け入れ。急な用事の場合も柔軟にスポットで利用できます。

安心・安全のお知らせと送り迎え
入退室はメールでお知らせ。17時半以降は最寄りの駅・バス停までスタッフが送迎します。

台風・大雪など学校休校でも開室
長期休暇期間は朝から開室。悪天候による臨時休校の時でも朝8時から必ず開室します。

夜7時まで開室
毎日夜７時まで開室。保健室にも看護師が夜７時まで常駐。急な発熱や怪我も安心です。

おやつと手づくり昼食
おやつは毎日提供。長期休暇時も手づくりの給食を提供。お弁当は必要ありません。

\ point 4 /

学校施設をフル活用

放課後はメインルーム３つに加えて体育館、ガーデン、音楽室、教室など学校施設全体を使って過ごします。

\ point 5 /

子どもを「主語」に考えるスタッフ

アフタースクール専任の常勤5名に加えて、学生から主婦まで約30名の多様なスタッフが働いています。

\ point 6 /

充実の長期休み

夏休みなど長期休み中は毎日がイベント。その道のプロや企業とのコラボ、美術館や大学などへの外出も。

プロジェクト

子どもたちの「やりたい！」から生まれたプロジェクト（PJ）。すべて本気の取り組みです。

研究者のたまごPJ
「四つ葉のクローバーはなぜできるのか」「スペインオオヤマネコの生態を調べる」など、各自の興味を深掘りするPJ。

マイクラカップ
マインクラフトを使い、テーマに沿ったフィールドをみんなで協力して制作。本気で大会出場を目指します。

カフェPJ
保護者のお迎え時の待ち時間に、お菓子や飲み物を提供。高学年を中心に仕入れ、接客、メニュー開発など本格的に運営。

おでかけPJ
みんな楽しめる？雨の日は？予算は？など、さまざまな条件を考え、みんなで納得いく遠足を話し合いで計画します。

point 7

多彩な
プログラム

習い事を、すべて学校内で

20種類以上の習い事の中から自由に選択して参加できます。変更もいつでもOK。学校内で習い事ができるため、移動がなく安心です。専門性の高いプロの講師が各プログラムを楽しく盛り上げます。

剣道　週3

講師／目黒雅也 剣道六段
◆剣道の基礎、武道ならではの礼儀作法を身につけます。中高生と一緒に練習します。

サッカー　週4

講師／NPO法人Sports Unity
◆毎月一つ課題を設定して技術の向上を図ります。対外試合もあります。

バスケットボール　週2

講師／合同会社UNITE
◆チームプレーを大切に、低学年はボールに慣れることを目指し、高学年は実践的な練習を行います。

チアリーディング

講師／折原裕子 恵泉女学園高校チアリーディング部 BLAZERS出身
◆仲間と協力し合い助け合う団体スポーツです。日頃の成果を発表する場も年2回設けています。

体操

講師／伊藤侑斗
◆マット運動、鉄棒、縄跳び、跳び箱など、さまざまなことへ挑戦。基礎体力と物事を諦めず最後まで挑戦する姿勢を育てます。

卓球

講師／国広哲弥 全日本マスターズ30代第3位、日本卓球協会公認卓球五段
◆最近、人気急上昇中の卓球。マシンも導入し、基本からしっかり練習します。

空手　週2

講師／此木洋子 日本武道傳 勇心門教士六段
◆礼に始まり礼に終わる。まず礼儀作法から、そして基本をしっかり身につけ、容（かた）を習得します。

野球

講師／一般社団法人なないろSports
◆大人気の野球を導入。野球と新競技「Baseball5」を合わせて行っていきます。

ダンス　週2

講師／RINA プロダンサー、パーソナルトレーナー
◆低学年は音楽に合わせる楽しさを学び、高学年はチームで難しい振り付けに挑戦。各種発表会にも出場します。

DOJO　週4

◆すべての学力の土台となる「基礎学力」を育成するタブレット学習。算数の「計算」、国語の「漢字・語い」、英語の「英単語」から選べます。

受賞

子どもたちの「好き」や「得意」を続けた先に、活躍や発表の場があります。

大会

チアリーディング
USA Regionals 2023 東京大会

プログラミング
WRO JAPAN 2024
第10回宇宙エレベーターロボット競技会
「全国大会3位」

剣道
中野区剣道大会

空手
東京都空手道選手権大会

作品展

マインクラフト
マインクラフト
第7回Minecraftカップ

書道
全国書道コンクール
特選、金賞、銀賞

発表会

新渡戸祭
ダンス、チアリーディング

アフタースクール発表会
アートスタディDAY
スポーツDAY

空手
勇心門「フェスタ」

バレエ

講師／SHOW BALLET JAPAN
◆「毎日が発表会！」がコンセプト。バレエの基礎や品格を身につけながらバレエの代表的な音楽で踊る時間も取ります。

マンガ

講師／風屋ロッサリ　漫画家「もち」アシスタント
◆マンガに必要なストーリーやキャラクター作り、つけペンを使用した作画技術習得などに挑戦します。

アート

講師／小林真衣子 絵画教室主宰、橡本容子 陶芸家、桜岡みゆき 画家　ほか
◆1年生は絵画・造形、2年生以上は陶芸・絵画・刺繍などさまざまな分野に挑戦します。

ピアノ・フルート・ヴァイオリン

講師／鈴木久仁子、春日玲子、田中秀子、大橋英莉
◆個々の進度に合わせたレッスンで、初心者でも気軽に始められます。発表会も予定しています。

プレVIVISTOP　週2

講師／VIVISTOPスタッフ
◆レーザーカッター、3Dプリンターなどのデジタル工作機械の使い方を学び、「ものづくり」を体験します。

科学

講師／サイエンスアカデミア
◆実験や工作を通して、身近な「ふしぎ」をみんなで考え、探求していきます。

英語　週3

講師／宮田多美子
◆聞く・話す・読む・書くの英語4技能を学ぶ自立型英語学習「Lepton」と、英語の本や歌、ゲームで学ぶ「アクティビティ」の2種類を用意しています。

そろばん　週4

講師／菅野明成　珠算五段、暗算六段
◆そろばんを通じて、一度身につけると一生使える計算の基礎・数値感覚を養成します。

書道

講師／田中葉奈　毛筆書写技能検定最高位一級
◆「字に上手い下手はない」「書道は自己表現の一つ」。作品展へも出展します。

オーケストラ

講師／藤崎美乃
◆地域でオーケストラを結成。中野区の他校とも合同練習しながら地域での発表を目指します。

プログラミング　週2

講師／STEMON、アルスクール
◆低・中学年はSTEAM教育をメインとしたものづくりでプログラミングの基礎を、高学年になるとAIをプログラミングに取り入れ、探求していきます。

VIVISTOP NITOBE

子どもたちが創ってみたいモノ、挑戦してみたいコトに取り組める場

もっと
知りたい方は
こちらへ

「クリエイティブ・フィールド」、VIVISTOP。学校の中には世界で初めて2021年4月に新渡戸文化学園内にフルオープン。のこぎりで木片を加工したり、自分で設計した部品をレーザーカッターで切り出したり、最新のテクノロジーツールを使ってロボットをつくったり。VIVISTOP NITOBEにはさまざまな設備やしかけがそろっています。授業の時間はみんなで社会とつながるクリエイティブなミッションの達成を目指す。放課後の時間は自分が望んだものを、大人とも協働しながら自分のペースで生み出していく。時間、教科、学年を越えて、子どもたちの想いがかたちになります。

子どもたち主体でつくる行事

「行事は自分たちでつくるもの」。この考えがあれば大人のためにやらされる行事は存在しなくなり、
子どもたちは“自分ごと”として取り組んでいきます。

スポーツデイ

昔ながらの「運動会」ではなく「みんなが運動で楽しめる日」を目指すスポーツデイ。運動が得意な子もそうでない子も、一人ひとりが自分の役割を持ってみんなで創ることを楽しみます。

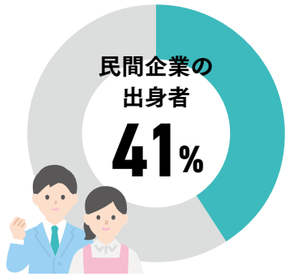
新渡戸祭／スタディフェスタ

年2回、自分たちの学びをアウトプットします。作品展示やプレゼンテーション、体験型アクティビティなど、子どもたち主体で企画や運営を行います。

多様で個性ある先生たち

もっと知りたい方はこちらへ

新渡戸文化小学校には、多様な経歴をもつ先生たちが集まっています。それぞれの経験を活かしながら、子どもたち一人ひとりに向き合うために、大人自身も学び続けています。



多様な経歴を持つ先生たちが専門性を発揮

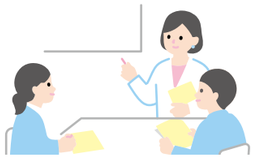
当学園には教員以外の職種を経験したことがある先生が41％在籍しています。IT企業、製薬会社、知育型学習塾、ビジネスコーチ、カフェ経営等、多様な職種出身の先生たちが、学校だけでは得られない学びに子どもたちをつなぎます。

担任＆学年担当のチームで手厚くサポート

「学年チーム担任制」を取り、1学年3〜4人の先生で子どもたちを見守ります。子どもはウマの合う先生を見つけることができ、先生たちも複数で対応することでゆとりを持って子どもたちに向き合うことができます。

教員研修/勉強会

38回/年



子どもだけでなく大人も学び、高め合う

私たちのチャレンジには、教員の学びが不可欠です。年間40本近くの全体研修の他にも、外部講師による授業視察＆アドバイスの機会など、たくさんの学びの機会があります。年度末には、研修合宿を行い深く語り合います。

新渡戸稲造語録 1

人の子を預る以上は『親心』を以てこれに対すること

教職員心得に書かれています。教職員全員が「どの子も我が子」の想いで児童を家族のように大切にするよう、教育者の心得として指導されました。

旅して育つ「スタディツアー」

「旅は絶好の成長機会」ととらえ、現地のコーディネーターと連携しながら独自の宿泊行事をデザイン。
3年生以上が学年ごとにそれぞれの土地を訪れ、「そこ」にしかない学びを経験します。

1 ネイチャーガイドとともに、湿原で思い思いの時間を過ごす。大自然の中で「自分の大切なもの」について思いを馳せるグループも。　2・3 民泊で「みなかみのお父さん・お母さん」に出会う。最初は緊張で少し硬かった子どもたちの表情も、一緒に過ごすうちに自然な笑顔に。　4 廃校になった校舎を利用した宿泊施設で友だちと再会し、旅の振り返り。旅で得た気づきを友だちに熱弁する姿も。

旅のテーマ

「地域にあるしあわせ」に出会う旅。

5年生は自然あふれる群馬県みなかみ町に滞在し、普段慣れ親しんだ都会的な生活から離れ、地域の生活の豊かさを経験します。旅のスタートは、稀少な草花が群生する湿原でチェックイン。小グループに分かれて民泊を経験することで、地元のお父さん・お母さんの生活や、その中で大切にしていることなどに触れながら、「地域にあるしあわせ」を体感。再び仲間と合流したら、旅で気づいたこと・感じたことをその日のうちに振り返ります。最終日には、初日と同じ湿原を訪れ、旅のチェックアウト。初日との感じ方の違いで、自分自身の変化に気づきます。

旅のテーマ

夏をめいっぱい楽しむ。旅をとことん楽しむ。

新渡戸文化の旅の始まりは、3年生。東京都あきるの市で2泊3日を過ごします。「旅って楽しい！」を旅の原体験にするために、とにかくとことん楽しむことがコンセプト。しかも、旅自体を子どもがプロデュースするプロジェクトにしています。朝の対話や食事の準備、旅の持ち物に至るまで、子どもが自分たちで決め、当日も自分たちで運営。無農薬野菜の収穫体験で採れたてのジャガイモを蒸して食べればとってもおいしい！川遊びではマスを探したり、友だちや先生と思いっきり水を掛け合ったり。家族旅行では体験できない学びと遊びを存分に味わいます。

旅って楽しい！

1 東京なのに、東京じゃないみたい。無農薬で育てられた野菜が実る農園で収穫体験。もちろん、その場でかぶりつきます！　2 外はめちゃくちゃ暑いけど、川の水に飛び込めばとっても気持ちいい！　自然と一体となって思う存分川遊びを楽しみます。　3・4・5 宿泊先近くの学習施設で地形や鉱物について学んだり、竹細工でお箸を作ったり、お寺で座禅の体験をしたり。旅先では全てが学びです。

新渡戸稲造語録 2

Haste not, Rest not　―急ぐなかれ、たゆむ（休む）なかれ―

新渡戸文化学園には、新渡戸先生が毛筆で力強く書いた扁額があります。ゲーテから学んだといわれ、知人にも送るほど大好きな言葉だったようです。

「しあわせをつくる人」が育つ学校に入って

新渡戸文化での授業や行事、さまざまな取り組みを通して
子どもがどのように成長したのか、2組の親子にインタビューしました。

プロジェクト科の経験を通して学んだ
互いの長所を認め、活かしあうことの大切さ

Kくんはプロジェクト科の授業でプレゼンに取り組んだとき、自分はアイデアを出すことが好きで、友だちは物事を俯瞰して捉えることが得意なことに気づいたそうです。母の睦美さんは「自分と友だちの得意なところを掛け合わせて何かを生み出す楽しさを体感した大きな経験になったようです」と振り返ります。「新渡戸文化では、人生を生きるために必要な豊かな土壌を育んでもらっているように感じます」と父の拓己さんは語ります。

遠藤家
父：拓己さん
母：睦美さん

遠藤家
Kくん

新渡戸祭が自分の個性を考えるきっかけに。
友だちの意外な一面も発見

新渡戸祭の「自分らしさ」を表現する展示で、Kくんは大好きなサッカーをテーマとしたブースをつくり、スパイクやボールを置いて自分を表現しました。「展示づくりは自分を見つめるきっかけになりました。宝石やペットボトルで自分を表現している友だちもいて、普段とは違う意外な一面を知ることができました」とKくん。「将来は、自分の意見を主張するだけではなく、他人の意見も尊重できる人になりたい」と思いを伝えてくれました。

意見を受け入れてもらえる環境があるから
自分らしさを前向きに出せるように

入学当初、Kくんは授業中に手をあげない子だったそう。学校生活を通して、授業中に楽しそうに発言する様子が見られるようになり、ご家族は驚いたといいます。「先生や友だちに恵まれ、クラスの雰囲気に安心感があるから、『自分は受け入れられている』と感じているのでは」と母の雪絵さん。父の博貴さんも「新渡戸文化の“非認知能力を伸ばす教育”が、息子の主体的な行動につながっていると思います」と語りました。

吉野家
父：博貴さん
母：雪絵さん

吉野家
兄：Kくん
妹：Hさん

人の意見に流されず、自分の考えを持った
“自律した人”になることが将来の夢

妹のHさんは、新渡戸文化に入学してから明るい一面がさらにのびのび発揮され、お友だちもたくさんできたそうです。一方で兄のKくんは、自分の意思で行動する“自律型学習者”としての姿を示す先輩にあこがれるようになったといいます。Kくんは「将来は、人の意見に流されず、自分の考えを持った“自律した人”になりたいです。また、困っている人にやさしくできるようにもなりたいです」とまっすぐな言葉で教えてくれました。

新渡戸稲造語録 3
百の理論よりも一の実践が尊い

プロジェクト型の学びにつながる「実体験からの学び」を重視した新渡戸先生は、経験学習を提唱したアメリカの教育学者ジョン・デューイとも親しい仲であったといわれています。

アイデアが生まれ、対話が深まる学びの環境

きれいであること、おしゃれであることも大切ですが、学びが深まることが最も重要。
子どもの学びがどんどん加速する学習環境を整えています。

コンセプトは「温かくてシンプル」な空間。子どもたちが自然とリラックスして笑顔になるようにデザインしています。全ての教室にホワイトボードとプロジェクターを設置。廊下はギャラリーになっており、学びのアウトプットを展示できるように設計しています。

自分で組み合わせできる制服

ブレザーは品位と風格を漂わせるグレーの生地を用いて、都会的なセンスを感じさせるデザインに仕上がっています。暑い季節は白や紺のポロシャツ、肌寒い時期はえんじ色のセーターなど、組み合わせを工夫し、自身でコーディネートができます。女子はパンツスタイルも選択可能。また、1･2年生はいつも元気に活動できるよう、体操着で一日を過ごします。

登下校中には制帽を着用します。春夏用と秋冬用があります。

安心・安全に過ごすために

登下校メール
交通系ICと連動して、子どもの登下校時刻を知らせるメールがご家庭に届くので安心です。正門前や通路には警備員が常駐。緊急時の子どもの位置確認や連絡用に携帯電話の所持も許可制で認めています。

連絡網「マチコミ」
学校と保護者相互のメール送信、欠席連絡など、情報共有・連絡ツールとして使用。連絡をすぐ受信し確認することができるので、非常時にも臨機応変に対応できます。

保健
子どもの登校時間から、アフタースクールが終わる19時まで、子どもを見守る学校の看護師が在駐。保護者が迎えに来るまで安心して過ごすことができます。

カウンセリング
毎週火曜日・木曜日・土曜日にスクールカウンセラーが校内に在駐。小学校と連携して子どもたちを見守っています。予約をし、いつでも相談することができます。

小児科オンライン
体調が悪いけれど、病院に行けない時などに、現役の小児科医にオンライン相談ができます。小さなことにも丁寧にアドバイスしていただける、安心のシステムです。

新渡戸稲造語録 4
人格の後光を放て

まぶしく光を放つように人格を磨くようにと、人格形成を重視されました。「違いを認めあい、相手を思いやる心」こそが国際的感性と説きました。

NEWS

新渡戸文化小学校・中学校・高等学校が ユネスコスクールに認定されました

ユネスコスクールは、ユネスコの理念や目的を学校のあらゆる面（組織運営や授業、プロジェクト、経営方針など）に位置づけ、児童・生徒の「心の中に平和のとりでを築く」ことを目指しています。2025年7月、新渡戸文化小学校・中学校・高等学校はユネスコスクールに認定されました。

ユネスコの原型となる組織をつくったのは、学園初代校長の新渡戸稲造先生でした。アインシュタインやキュリー夫人などの世界的な識者と共につくられた背景があり、このたびの加盟を新渡戸先生もきっと喜んでくれていると思います。

世界を見渡せば、数々の紛争が今も起きています。そのような中だからこそ「多文化共生」を軸に、子どもたちとの教育活動、研修などリテラシー醸成、イベントへの積極参加、視察の受け入れなどを通してユネスコスクールのネットワークに参画させていただき、子どもたちの「心の中の平和のとりで」づくりの一助になっていければと考えております。

新渡戸文化学園らしいユネスコスクールを目指しますので、皆様どうかご期待ください。

unesco
Member of
the Associated Schools
Network

ユネスコスクール：2025年9月時点で、国内では1,083校の就学前教育・保育施設、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学等がユネスコスクールとして活動しており、その加盟校数は世界全体の約1割を占め、多種多様な活動が行われています。

「木製パレットを活用した循環する靴箱」が 第19回キッズデザイン賞において キッズデザイン協議会会長賞を受賞！

木製パレットを活用して新たに生まれた学校の玄関「循環する靴箱」が第19回キッズデザイン賞を受賞。地元・中野の企業と協働し、国産の間伐材を用いてつくられたパレット靴箱は入学時に6年生から手渡され、子どもの成長を継承します。子どもがイラストを描いた靴箱が並ぶ玄関は木の香りに満ち、温かく迎えてくれる学び舎の象徴となりました。

プロジェクト型理科学習と自由探究学習が ソニー子ども科学教育プログラムにおいて 2年連続で優秀校に選出！

自律的な学習者を育む授業デザイン「WonderTime+」が、ソニー子ども科学教育プログラムの「科学が好きな子どもを育てる教育実践論文」にて2年連続優秀校に選ばれました。理科やSDGsを題材に、わくわくを引き出すアウトプットで非認知能力の育成も促進しています。子どもの「好き」や好奇心を原点にした自由な探究が、学ぶ楽しさを広げています。

自ら学びに向かう力を持った「自律型学習者」の育成を

新渡戸文化小学校 校長
杉本竜之

自分なりの考えを持ちつつ、多様な他者と共存・協調し、問題や課題を発見、解決し、主体的に行動できる。

これはさまざまな文化や価値観が混在する社会を生き抜くために必要な力です。このような力は、基礎基本の学習内容を確実に習得し「自律型学習者」として学び続けることによって身につけることができます。

そのために私たちは、本校の伝統である「どの子も我が子」の精神で一人ひとりの子どもたちを丁寧に支援してまいります。

両博士から受け継いだ思い

初代校長
新渡戸稲造 博士
（1862〜1933）

旧五千円札の肖像として、また、日本の精神文化を流暢な英語で紹介した『武士道』の著者としても知られている新渡戸稲造博士。女子経済専門学校（現：新渡戸文化学園）の初代校長に就任した際に語った、「親心をもって教える教師による愛の学校でなければならぬ。」という言葉を受け継ぎ、生徒一人ひとりの人格を尊重した教育を実践しています。

創立者
森本厚吉 博士
（1877〜1950）

優れた学者として政府の要職を歴任し国際的にも著名であった新渡戸稲造博士を校長に招いたのが、札幌農学校時代の教え子である森本厚吉博士でした。森本博士は「男女が同じように働かねばならない」という信念のもと、「実際に役立つ教育」という教育目的を掲げました。新渡戸博士の「人格教育」と森本博士の「実践教育」が融合してできたのが本学園です。

新渡戸文化中学校

学園が掲げる「Happiness Creator」を最上位に、自分と世界のしあわせをつくり出すための「自律型学習者」を目指しています。AIや動画を用いた個別最適化された教材を活用し、知識をつけることだけが目的ではなく、自分の生き方につながる基礎学力を養成。そして自らテーマを作ってアクションまで繋げる、週1回丸一日を使用した探究学習（クロスカリキュラム）など、「社会と未来につながる力」を幅広く習得。高等学校進学に向け、「自分だけの学び」を実現しています。

新渡戸文化高等学校

3つのコースを備えた普通科課程の学校です。それまで培ってきた自律型学習者のマインドをベースに、責任をもって社会変革を実現していく力を発展させます。「旅」と「探究」を軸に、コース毎に特化した広い出会いと探究（クロスカリキュラム）のサイクルを重ね、それぞれが幸せにしたい世界に向かって知性を磨き、スキルを身につけます。「卒業までに100人の大人に出会う」をモットーに、自分だけの進路を描きながら、それを実現するだけの力が育まれる環境を整えています。

自分のやりたいことを極める3つのコース

- 探究進学コース（医療系・理系・文系）
- 美術コース
- フードデザインコース

未来を共に創るパートナー NITOBE FUTURE ADVISER

新渡戸文化学園の理念に共感し、教育活動へのアドバイスや社会にその取り組みを発信してくれる心強い応援団です。

アドバイザーの方々からは生徒や保護者に向けた特別授業や講演も予定しています。ご期待ください！

大空小学校
初代校長
木村泰子さん

慶應義塾大学大学院
システムデザイン・
マネジメント研究科 教授
前野隆司さん

花まる学習会代表、
NPO法人子育て応援隊
むぎぐみ理事長
高濱正伸さん

エシカル協会 代表理事、
ユネスコ 広報大使
末吉里花さん

コモンズ投信株式会社
取締役会長 兼 ESG最高責任者
渋澤 健さん

明蓬館高等学校 学校長・理事長
日野公三さん

FutureEdu 代表理事
竹村詠美さん

株式会社morich 代表取締役
森本千賀子さん

ラーンネット・グローバルスクール 代表
炭谷俊樹さん

Think the Earth 理事、
多摩美術大学 客員教授
上田壮一さん

日本パラリンピアンズ協会 会長
大日方邦子さん

ほか、多数！